

令和4年度 全国情報処理教育研究協議会 議事録

海部高等学校 中原三智子

- ① 日時 令和5年3月11日(土) 13時30分～16時30分
- ② 場所 オンライン開催(Webex Meet アプリ利用)
- ③ 参加者 各都道府県1名, 全商協会本部役員および専門委員(約75名)

13時30分～開会式

13時40分～

■ 田中圭 調査官

- ・ ChatGTPのような技術(試験問題や挨拶文の作成)が出てくると、ExcelやWordを利用しなくてもよくなりそうだ。このような時代にどのように教えていくか考えなければならない。
- ・ 資料(田中圭調査官作成, 商業教育の現状・課題, 以下同じ) p3 国家試験合格実績から検定は素晴らしい成績を上げているが、今後はDX人材の育成が大事。
- ・ DX人材について。明確な定義はないが、経産省ガイドラインによると、①DX部門においてデジタル技術に精通した人材 ②デジタル技術への理解があり、業務内容に精通した人材で、プロジェクトを統一して進めることのできる人材。
- ・ 商業科は上記の①と②では、②の人材を担うべきであるが、資料p5のように、マーケティング分野といったビジネスを理解する授業が開設されていない。
- ・ マーケティングを設定していない学校もあるのはどうかと思う。今後のビジネス社会、DX社会で求められる人材を育成するため、検定合格のためだけの教育課程は見直すべきである。

14時10分～

■ 議事

1. 令和4年度 情報処理検定試験実施報告(原副部長, 長谷川専門委員)

- ・ 受験者内訳は、7～8割がビジネス情報部門、2～3割がプログラミング部門である。
- ・ 全体の受験者数は減少しているが、プログラミング部門は増加している。
- ・ 目標合格率は、1級30%、2級50%、3級80%であるが、意図的な難易度の調整は行っていない。目標合格率を目指して作問している。(平易な問題と応用問題を全体のバランスを見て出題している。)今後も同程度の難易度で出題していきたい。
- ・ アプリケーションソフトウェアのシェアについて、今年度Excel2019のシェアが伸びた。
- ・ プログラミング部門、合格率R4年度は、1級37.8%、2級63.3%であり、昨年度とほぼ同じ合格率だった。想定した合格率に達していると評価できる。新検定でも、安定した合格心を心掛けていきたい。

2. 情報処理研究部の今後の方向性(原副部長)

新検定により、今年度大幅な改訂を行ったので、次年度は大きな改訂はない。

(今回の報告も、連絡確認の意味合いが大きい)

- ・ 級表記の変更について、令和6年度より変更

情報処理検定試験

ビジネス情報部門 1級

プログラミング部門 1級

↓

情報処理検定試験

ビジネス情報 1級

プログラミング 1級

・プログラミングコンテストについて

- ・実動画は審査における評価の対象外である。(紙面での評価のみである)

実動画が素晴らしすぎるため、確認の意味を込めてアナウンスした。今後も、このような素晴らしい動画を作ってもらうことは良いこと。(ただし、評価の対象ではないということ)

- ・表計算における問題の検証は今後も Excel のみ。グーグルスプレッドシートでは行わない。
- ・ビジネス情報部門における表計算問題の動作検証は現在 2013 で行っているが、今後 2016 で行う。
- ・令和 5 年度よりプログラミング部門 1 級【4】の出題レイアウトを変更。
- ・検定用語「digital」の表記を変更する。令和 6 年度より「デジタル」から「デジタル」に変更。

【質問（石川県モリタ先生より）】

・検定の表記について。令和 6 年度から変更とのことだが、令和 6 年度の入学生だけでなく、学年問わず新検定の名称に変更されるとの認識でよいか。

→はい。令和 6 年度より実施の検定は、すべて部門をとっての表記になる。

3. その他 15 時～

(1) 情報処理競技大会について

(令和 4 年度の報告)

- ・生徒 3 名の合計点の平均は、250.6 点
 - I 部（関連用語とデータベース）平均は 52.3 点、最高点 89 点、最低点 16 点
 - II 部（表計算とアルゴリズム）平均は 27.5 点、最高点 85 点、最低点 0 点
- ・個人優勝は、三重県立津商業高等学校で、I 部 83 点、II 部 85 点、合計 168 点

上位 10 名の内、2 年生が 4 名。優勝した生徒と第 3 位の生徒が 2 年生。来年度の大会も楽しみにしている。

(令和 5 年度の連絡)

7 月 23 日（日）に実施。日本大学法学部本館（水道橋駅から徒歩 5 分）

- ・昨年度の競技会では応援生徒は入場不可だったが、今年度は可能に。教員の引率 2 名までだったが、上限なしに変更。(※ただし、今後のコロナウイルス状況によっては変更の可能性もあり)

(2) プログラミングコンテストについて（坂本専門委員）

- ・どの作品も素晴らしかったが、特に最優秀用の「リモート窓忘れチェッカー」は素晴らしかった。結果は全商協会 HP に掲載してあるので、見てほしい。

(3) 事務局より（詳細は、資料 1～11）

- ・第 1 回全国商業高校 Web アプリコンテストが 2023 年度より開催される。(詳細は実施要項に)
- ・今後、保管をお願いしている会計信憑書類の提出をお願いすることがあるかもしれない。
- ・全商 Web システムを令和 6 年度より新システムへ移行する。全商検定の CBT 化について、実施する場合は新システムと連携する。
- ・令和 6 年度より新全商 Web システムに合わせ、1 級満点賞対象者は自動抽出される（申請手続き不要）令和 6 年度より、記念品は廃止。